



平成29年5月31日

各 位

会 社 名： 小野薬品工業株式会社
代 表 者： 代表取締役社長 相良 暁
(コード番号 4528 東証第一部)
問合わせ先： 執行役員広報部長 谷 幸雄
(TEL : 06-6263-5670)

米国アレイ社と MEK 阻害剤「Binimetinib」および BRAF 阻害剤「Encorafenib」に関する ライセンス契約を締結

小野薬品工業株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：相良暁、以下「当社」）は、本日、Array Biopharma Inc.（本社：アメリカ・コロラド州ボルダー、最高経営責任者：Ron Squarer、以下「アレイ社」）が開発中の MEK 阻害剤「Binimetinib」および BRAF 阻害剤「Encorafenib」について、日本・韓国で開発・商業化するライセンス契約を締結しましたので、お知らせします。

MEK 阻害剤である Binimetinib および BRAF 阻害剤である Encorafenib については、現在、併用療法として BRAF 変異メラノーマ（COLUMBUS 試験）と BRAF 変異大腸がん（BEACON CRC 試験）を対象とした 2 つのグローバル第Ⅲ相臨床試験を実施中です。

本ライセンス契約の締結に伴い、当社は契約一時金として 35 億円をアレイ社に支払うとともに、開発の進捗に応じたマイルストーン、および売上高に応じたマイルストーンとして、総額で最大 173 億円をアレイ社に支払います。これらのマイルストーンには、BEACON CRC 試験に関連したマイルストーンも含まれています。また、当社は、日本・韓国における売上高に応じた二桁台の料率のロイヤルティをアレイ社に支払います。さらに、当社は、臨床試験に係る費用の 12%を負担することにより、今後実施される Binimetinib および Encorafenib に関するすべてのグローバル臨床試験に参画することができます。なお、アレイ社は、引き続き、米国、カナダおよびイスラエルにおいて独占的に商業化する権利を留保します。

当社の代表取締役社長である相良暁は、次のように述べています。「今回、分子標的薬の研究・開発で実績のあるアレイ社と、Binimetinib と Encorafenib について提携できたことを大変喜ばしく思っています。これまでに実施された臨床試験から、有望なデータが認められている両化合物は、併用療法として BRAF 変異メラノーマや BRAF 変異大腸がん、さらには他のがんで苦しんでおられる患者さんに対する新たな治療選択肢になるものと考えています」。

アレイ社の最高経営責任者である Ron Squarer 氏は、次のように述べています。「我々は、急速に拡大する開発パイプラインを有するとともに、がん領域における開発および商業化について成功実績を有する、がん免疫療法薬で日本市場をリードする小野薬品を提携パートナーとして選択しました。小野薬品は日本・韓国の市場に精通していることから、当社は両市場から恩恵を受けるとともに、米国における Binimetinib と Encorafenib の商業化に専念することができます」。

アレイ社について

アレイ社は、がん患者の治療を対象とした低分子化合物の創薬、開発および商業化に注力しているバイオ医薬品企業です。アレイ社の7つの薬剤< Binimetinib (MEK162)、Encorafenib (LGX818)、Selumetinib (AstraZeneca 社と提携)、Danoprevir (Roche 社と提携)、Larotrectinib (Loxo Oncology 社と提携)、Tucatinib (Cascadian Therapeutics 社と提携) および Ipatasertib (Genentech 社と提携) >について、現在、申請に向けて臨床試験が進められています。

以上